

令和7年度

名古屋大学大学院情報学研究科  
社会情報学専攻  
入学試験問題（専門）

令和6年8月7日

注意事項

1. 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開いてはならない。
2. 試験終了まで退出できない。
3. 日本語または英語で解答すること。
4. 問題冊子、解答用紙2枚、草稿用紙1枚が配布されていることを確認すること。
5. 問題は「現代社会における哲学的諸問題」、「哲学基礎」、「社会情報学の諸問題」、「環境考古学」、「文化財科学」、「情報社会システム」、「メディア・コミュニケーション研究」、「国際関係論」の8科目がある。このうち2科目を選択して解答すること。なお、選択した科目名を解答用紙の指定欄に記入すること。
6. 全ての解答用紙の所定の欄に受験番号を必ず記入すること。解答用紙に受験者の氏名を記入してはならない。
7. 解答用紙に書ききれない場合は、裏面を使用してもよい。ただし、裏面を使用した場合は、その旨、解答用紙表面右下に明記すること。
8. 解答用紙は試験終了後に2枚とも提出すること。
9. 問題冊子、草稿用紙は試験終了後に持ち帰ること。

## 現代社会における哲学的諸問題

以下の(1)と(2)から1問を選んで回答しなさい。両方に答えた場合は、採点対象としない。

(1) 致命的自律型兵器 (Lethal Autonomous Weapons System; LAWS) の倫理的な問題点について、根拠を明らかにしながら自分の見解を述べなさい。

(2) 科学的知識と日常的知識の例をそれぞれ1つ以上挙げたうえで、それらを分析しながら、科学的知識と日常的知識がどのような点では一致し、どのような点では異なるのかを説明しなさい。

## 哲学基礎

次の(1)～(12)の項目のなかから4つを選んで、それぞれを400字程度で説明しなさい。5つ以上を選んだ場合は、採点対象としない。

- (1) アフォーダンス (Affordance)
- (2) 意味使用説 (Use theory of meaning)
- (3) チューリング・テスト (Turing test)
- (4) 反応的態度説 (Theory of reactive attitudes)
- (5) 演繹的推論 (Deductive inference)
- (6) ベイズの定理 (Bayes' theorem)
- (7) デカルト的懐疑論 (Cartesian skepticism)
- (8) 科学的反実在論 (Scientific anti-realism)
- (9) 表現説 (Art as expression)
- (10) 芸術における形式主義 (Formalism)
- (11) 美的機能説 (Aesthetic functionalism)
- (12) 美学における反本質主義 (Anti-essentialism)

## 社会情報学の諸問題

次の問 1 から問 3 のうち、1 つを選び解答しなさい。2 つ以上解答した場合は、採点の対象にしない。

問 1 以下の 2 つの間 (1) (2) のうち 1 つを選択し答えなさい。2 つ以上解答した場合は採点しない。

(1) 日本政府が構想する「デジタル田園都市国家構想」において、データの創成・連携・活用のサイクルを担うための重要な仕組みの一つに「データ連携基盤」の存在がある。これからのデジタル社会の実現に向けて、データ連携基盤を導入・活用することのメリット・デメリットについて触れ、官民協働によるデータ利活用施策がより良い方向に向かうには何をどのように推進すべきかについて、具体的に説明しなさい。

(2) 情報通信技術の発展が著しい昨今、個人情報の保護に関する施策についても目まぐるしく変化している。これまで国、独立行政法人等、民間事業者及び地方公共団体において、異なる法律や条例が適用されてきたが、令和 5 年 4 月より個人情報保護法に一本化された。これからのデジタル社会の実現に向けて、個人情報保護法への一本化がもたらすメリット・デメリットについて触れ、また個人情報を適正に活用したサービスの案を構想し、具体的に説明しなさい。

[次ページに続く]

問2 以下を読み、小問4つについて、すべて解答しなさい。

社会情報学がもつ研究方法は「ハードとソフト両面における情報テクノロジーの発展」によって支えられている。そこでは「学際的な理論的研究」として文献研究が存在する。関連および隣接領域が広くあるため、興味をもって幅広く研究することが研究者に求められる。ただ、そう言いながらも、実際の<sup>(1)</sup> 研究方法は2つに分けられることが多い。

インターネットの登場、普及により情報量が格段に増えた。これを情報爆発と表現することもある。ただ、人間が把握することが困難になったデータを直接分析することは難しい。そのために、非構造化のまま存在する非常に大きなデータをセットし、保存・管理する施設に加え、データを運用できる技術の習得の必要性が高まる。こうしたデータ群をまとめて「(2)」ということがある。(2)を特徴づける要素を<sup>(3)</sup> 3V、さらに Veracity (真実性) と Value (価値) を加えて 5V と表現することもある。そうした要素に基づけば、やはり、前のパラグラフで触れた主要な研究方法のうちいずれかの研究方法の意義が失われたわけではないこともわかるだろう。

(1) この2つの研究方法は「定○的研究」、「定○的研究」である。○の部分埋めて、2つの研究方法を記しなさい。

(2) この言葉をカタカナ6文字ないし英語で記しなさい。

(3) 3Vは、ある言葉の頭文字にあるアルファベットのVから来ている。それが何をあらわすかを3つとも解答しなさい。なお、解答の記載は、英語もしくは日本語(カタカナ表記)でしなさい。

[次ページに続く]

(4) メディア研究でも (2) を対象とした研究が増えている。こうした環境において、もし、あなたがメディアイベントを研究する場合、どのような研究デザインをたてるか？ これに関連して、以下の A) と B) とともに解答しなさい。

A) 対象とする具体的／現実的なメディアイベント (例) を挙げなさい。

B) (1) で解答した 2 つの方法の視点から、あなたはどのようなアプローチをとり、得られる結果にどのような特徴があると考えるかを自由に記しなさい。

### 問 3

「メディウム・スペシフィック (medium specific)」と「サイト・スペシフィック (site specific)」は、1960 年代から 70 年代のアートを語るときに欠かせない考え方であった。これらについて、以下のすべての問に答えなさい。

(1) メディウム・スペシフィックとサイト・スペシフィックとは、それぞれ作品のどういう特性を指す言葉か。上記 2 つの言葉それぞれについて、1960 年代から 70 年代に発表された具体的な作品を 1 つとりあげ、詳しく説明しなさい。

(2) 21 世紀の現在においても、この 2 つが作品の特性を語る上で有効な視点であると考えられるとしたら、それはなぜか。この点について、具体的な作品を 1 つとりあげ、詳しく説明しなさい。逆に有効ではないと考えるなら、それはなぜか。その理由について、具体的な作品を 1 つとりあげ、詳しく説明しなさい。ある部分では有効、またある部分では有効ではない、という答えでもよいが、同じく具体例をあげ、詳しく説明しなさい。

[以上]

## 環境考古学

貝塚などから出土する貝類は、考古学にとって重要な研究材料の1つである。これらの貝類のうち、二枚貝の捕獲された季節を推定する方法について、具体的に述べなさい。図を用いてもよい。

## 文化財科学

遺跡で出土する人骨の性別を「頭蓋骨」から判定する方法と「頭蓋骨以外の骨」から判定する方法を具体的に述べなさい。図を用いてもよい。



## 情報社会システム

以下の問題を2問とも解答しなさい。

(1) 以下の、情報通信技術 (ICT: Information and Communication Technology)に関連する用語すべてについて簡潔に説明しなさい。

1. ローコード・ノーコード (Low-code and no-code)
2. 地域社会 DX
3. ゼロトラスト・セキュリティモデル (Zero trust security model)
4. ガバメントクラウド
5. Starlink

(2) 「デジタル社会の実現に向けた重点計画」が2024年6月に閣議決定された。本計画ではデジタル化の目的として「課題解決」が強調されている。デジタルを活用した課題解決を進め、生活を便利にして「デジタル化」を「当たり前」にしていくためには、その担い手たる人材が質・量ともに欠かせないことから、デジタル人材育成の取組を強化するとされている。デジタルを活用した地域課題解決の担い手を育成するために、誰がどのようにデジタル人材を育成していくべきか、具体的方法を挙げつつ説明しなさい。

## メディア・コミュニケーション研究

以下の大問(1)~(3)のうち、一つを選んで解答しなさい。二つ以上の大問を解答した場合は採点しない。解答の際には、(1)~(3)のうち、どの大問を選んだか明示すること。

(1) 「客観報道」について、次の二つの小問すべてに答えなさい。

①報道が客観性を有するための要件について説明しなさい。

②伝統的メディアによる報道が、実際に「客観的」になされてきたかについて、これまで様々な批判がなされてきた。どのような批判があるか、具体例を挙げながら説明しなさい。

(2) G・ガーブナー(George Gerbner)らがテレビの影響力に注目して提起した培養理論(cultivation theory)について、次の二つの小問すべてに答えなさい。

①この理論はどのような内容かを説明しなさい。

②動画共有サイトやビデオストリーミングサービスなど、多様な映像メディアが参入するなかでの、今日におけるこの理論の有用性について、適切な事例を挙げながらあなたの考えを論じなさい。

(3) 米国大統領選挙の選挙キャンペーンについて、次の二つの小問すべてに答えなさい。

①2008年の選挙で勝利したバラク・オバマ(Barack Obama)の選挙キャンペー

ンは、秀逸な政治マーケティングの手法で高い評価を受けた。このときオバマ陣営が採用した手法について、具体例を挙げながら説明しなさい。

②2016年の選挙で勝利したドナルド・トランプ(Donald Trump)の選挙キャンペーンについて、どのようなメディア手法が採用され、それはどのような批判を受けたかを、具体例を挙げながら説明しなさい。

なお、この問いは、2016年の事例についてたずねているため、解答にあたっては、2024年の米国大統領選挙におけるトランプの選挙キャンペーンと混同がないように注意すること。

## 国際関係論

以下の大問(1)～(3)のうち、一つを選んで解答しなさい。二つ以上の大問を解答した場合は採点しない。解答の際には、(1)～(3)のうち、どの大問を選んだか明示すること。

(1)パブリック・ディプロマシー(public diplomacy)について、次の二つの小問すべてに答えなさい。

①パブリック・ディプロマシーが何を意味するかについて、プロパガンダ(propaganda)との類似・重複点および差異を明確にしつつ、説明しなさい。

②冷戦後中国のパブリック・ディプロマシーについて、事例をいくつか挙げつつ、その成果および課題を論じなさい。

(2)次の二つの小問すべてに答えなさい。

①公共政策の過程は複雑である。その複雑性を構成する代表的なものを四つ挙げ、それらがなぜ複雑性を増す要因になるかを、それぞれ二～三行程度で簡単に説明しなさい。

②複雑性を帯びる公共政策を構造的に理解しようとする時に、それを「良構造(well-structured)」と「悪構造(ill-structured)」に分類することがある。それらの違いや特徴を説明しなさい。

次ページにつづく

(3)「情報格差(digital divide)」について、次の二つの小問すべてに答えなさい。

①インターネットが広く普及している日本国内においても、情報格差がいまだ問題視されている。こうした情報格差を引き起こしている要因を三つ挙げ、それらがどんな格差状況を生み出しやすいかを、それぞれ簡潔に説明しなさい。ただし、②の語群にある語句を、解答として挙げてはならない。

②先進国と途上国の間にも、情報格差が存在する。こうした国家間の格差状況を生み出しやすい要因を、以下の語群にある語句をすべて用いて説明しなさい。なお、解答用紙に答えを記入する際、語群にある語句を用いるたびに、その語句を四角で囲むこと。

語群：ICT インフラ、教育、市場競争、ソーシャルネットワークサービスのアプリケーション、電子商取引